

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学力の向上が本校の最重要課題である。平成26年度から継続してICTを活用し、複数体制や分割、習熟度別学習など指導法を工夫しながら基礎基本の定着を図っている。

当該学年における既習内容の確実な定着のため、「国・算プリント学習」を週1回実施し、学習が遅れがちな児童に対して「算数道場」や夏季休業中の「サマースクール」などの取り組みを進めてきた。その結果、全国学力・学習状況調査の算数A問題での無回答率は0%であった。算数において、基礎基本は定着しつつある。しかし、学習理解度到達診断の各学年の結果から「量と測定」「図形」において課題が明確になった。量感がつかめていなかったり、位置の捨象ができていなかったりすることから、正解に至っていない。高学年ほどその傾向が強い。

学ぶ意欲を高める指導を、ICTを活用して行っている。校長経営戦略予算の加算配当により、各教室に電子黒板内蔵プロジェクターと書画カメラを配置することができた。日常的なICT活用が可能となった。すでに各教室に配備されている学習用ノートパソコンも有効利用している。平成26年度からは、タブレットパソコンを児童が道具として授業において活用している。タブレットパソコンからの情報を電子黒板に反映させ、発表に活用する。デジタル教材を活用する。テレビ会議により遠方の小学校との交流をはかったり世界中の情報を獲得したりして情報活用能力を高めていく。

全国学力・学習状況調査および全国体力・運動能力、運動習慣等調査からは、基本的な生活習慣・自尊感情・家庭学習に対する課題も明確になった。

「進んであいさつができる」児童の育成に努める。あいさつはコミュニケーションの基本であるという自覚のもと、全教職員が手本となり、元気なあいさつを交わし合う。校内だけではなく、家族や地域の方にも自分から進んであいさつできる児童を育てる。

また、外国人観光客が多数訪れる校区の特性を活かし、タブレットパソコンの翻訳ソフトを使用し、コミュニケーション能力を高める英語学習を展開していく。また、児童の中には、フィリピン、インドネシア、ブラジル、ロシア、中国、韓国など外国にルーツを持つ子が在籍する。保護者の協力を得ながら国際理解教育を推進していく。

本校の児童は、全国平均と比べ、家族と将来の夢について話す機会に恵まれていない。自己有用感も高くない。児童が将来の自分に夢を描けるように、自分自身に誇りと自信を持てるように一人一人と接している。担任だけでなく全教職員で全校児童の実態把握・理解に努めている。

家庭学習の時間も短い。宿題をやらない児童も少なくない。本校独自に開設している放課後の「算数道場」やステップアップ教室、いきいき活動教室と連携し、家でできない宿題をするように支援している。「算数道場」では、全教師が関わり、日ごろ関わっている担任以外の教師が参加する児童について指導している。全教員が関わるため、学年を超えた児童理解につながっている。

繁華街を有する都心部の学校であるため、周りに安心して自由に活動できる公園や広場がない。健康・体力の保持増進のために学校が果たす役割は大きい。健康な体づくりの習慣や態度を身につけるため、多様な運動を体験させたり、体育的行事を充実させたりする。睡眠時間が短く、テレビゲームやスマートフォン、インターネット等に費やす時間は非常に長い。朝食を食べてこない児童の割合も高い。健康な生活習慣の確立と食育について、家庭との連携を強化しながら進めていく。

中期目標

【視点 学力の向上】

- ICT の活用を生かした授業を開発し、本校アンケート調査で「主体的に活用できるようになった」児童の割合を、毎年、全学年で前年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- 伝え合う力の育成を行い、本校アンケート調査で「授業で自分の考えや意見を発表している」と答えた児童の割合を、毎年、全学年で前年度より増やす。
(カリキュラム改革関連)
- 基礎・基本となる学力の向上を図り、学習理解度到達診断における無解答率を毎年、全学年で前年度より減少させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の本校アンケート調査で「進んであいさつができる」児童の割合を平成 25 年度より 5 ポイント以上増加させる。
(カリキュラム改革関連)
- 学校のきまりやマナーを守ること、ケガをする児童の数を、全学年で毎年減少させる。
(カリキュラム改革関連)
- 本校アンケート調査の結果、「子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている」と回答する保護者の割合を全学年で 80%以上にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 本校アンケート調査の結果から、健康な体づくりのための習慣や態度を身につける以下の項目の数値を毎年、全学年で前年度より向上させる。
 - ・「姿勢を意識するようになった」
 - ・「睡眠が十分にとれている」
 - ・「嫌いな食物を少しでも食べようとした」
 - ・「昼休みは運動場や講堂・体育館で体を動かしていることが多い」
(カリキュラム改革関連)

【視点 小中一貫した教育の推進】

- 前年度の成果と課題を踏まえた「小中連携アクションプラン」に基づいた取り組みを確実に実施する。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度までに、小中一貫した教育を推進するための小・小、小・中の交流を全学年で実施する。
(カリキュラム改革関連)